

# 組織目標評価報告書（平成28年度）

**部局名:** 大学院医歯薬学総合研究科 歯学系(基礎系・臨床系)・病院教員  
**部局長名:** 浅海 淳一

目 標	目標の達成状況(成果)及び新たに生じた課題への取組 (部局での検証とそれに対する取組)
<b>①教育領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>①-1 目標</b>	<b>①-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
<p>1) 大学院履修コースの充実 (背景:大学院生のニーズの多様化と融合型教育に対応するため) 一般コースと臨床専門コースを中心とする履修コースを充実させる。基礎系・臨床系分野が協力し歯学系独自の融合型の研究と教育を推進する。研究デザインワークショップを研究倫理に注力しながら、新医療研究開発センターと協力して拡充する。留学生の増加に対応して、(必要に応じて、)授業の英語化を推進する。</p> <p>2) 大学院生の確保 (背景:高い研究マインドを持つ人材を育成し、研究活動を活性化するため) 歯科研修医等の研究マインドの醸成に努める。一般コース、臨床専門コースを中心とした大学院の説明会を学部生や研修医に向けて行い、大学院生の確保に努める。交流協定を結んだ大学等から優秀な大学院生の留学を促進すべく、国際交流事業を促進する。</p> <p>3) 学務機能の電子化の推進 (背景:大学院生の履修自己管理を可能とするため) 大学院の学務システムの充実とブラッシュアップを行う。</p>	<p>1) 大学院履修コースの充実 ●研究手法論基礎・応用においては、半数の授業で英語のスライドを用いた授業を行い、外国人留学生対策を進めている。また、EPOKの英語授業「ライフサイエンス入門」を、医学系、歯学系、薬学系の英語が堪能な教員が対応して開講し、外国人留学生向けの大学院講義としている。さらに、短期留学生の増加に伴い歯学部で開講している「ODAPUS for Foreign Students 英語授業シリーズ」は、大学院の「みなし講義」として開講し、貴重な外国人留学生向け、大学院英語授業として活用されている。 ●English lecture series 2017として1月10日～2月3日にかけて19回の講義を行った。(参考:2015年9回、2016年14回)</p> <p>2) 大学院生の確保 ●本年度も大学院(一般コース、臨床専門コース)の説明会を研修医や臨床実習生に向けて開催し、歯学系の責任枠を超える大学院生(33名[責任枠:32名]:充足率103%)の確保に成功した。 ●外国人大学院生の増加に努めており、現在13名である。 ●将来の大学院生候補となりうる人材として、ベトナム北部大学とインドネシア1大学(いずれも協定校)から日本潜在歴がない歯学部教員各2名ずつ、合計6名をJSTさくらサイエンスプランにて10日～3週間招聘し、共同研究事業を行った。また、ODAPUSで5～6か月在岡の学生には、研究室で研究指導を行い、将来の大学院生として再来岡を期待し、実績を積ませている。</p> <p>3) 学務機能の電子化の推進 ●大学院電子学務システムPOSGRAの英語化と大幅な改修により、歯学系学務と協力し、大学院生に情報伝達する機能に加えて、社会人大学院生が学外からも、自分の履修状況や提出書類などの状況がわかるように電子化を進めている。また、SNS機能を付与して、大学院生同志の情報交換を可能にしている。</p>
<b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>①-2 大学全体への貢献</b>
<p>1) 大学院生の充足率 2) 外国人留学生の増加</p>	<p>●大学院履修コースを充実し、英語授業シリーズを整備し、また、大学院(一般コース、臨床専門コース)の説明会を研修医や臨床実習生に向けて開催し、歯学系の責任枠を超える大学院生(33名[責任枠:32名]:充足率103%)の確保に成功した。 ●将来の大学院生候補となりうる人材の育成、勧誘も行っている。 ●現在外国人大学院生は、13名で、外国人留学生の獲得にも貢献している。 ●学務機能の電子化を推進し、大学院電子学務システムPOSGRAの英語化と電子化を進め大学院生同志の情報交換を可能にし、大学院生獲得環境を整えている。</p>
<b>①-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>①-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
<p>1) 大学院生の充足率 2) 外国人留学生の増加</p>	<p>●大学院生の充足率100%を保っている。 【平成28年度】 平成28年4月入学 31人 平成28年10月入学 1人 充足率:100% 【平成29年度】 平成29年4月入学(合格者) 33人 充足率:103% ●大学院外国人留学生数も13人と増加に努めている。</p>
<b>②研究領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>②-1 目標</b>	<b>②-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
<p>1) 歯学系融合型研究の推進 (背景:歯学系独自の研究の推進と次世代の研究・教育者の育成のため) 歯学系内での基礎研究と臨床研究の橋渡し(トランスレーショナル・リサーチ)の体制を推進する。</p> <p>2) 新しい学際研究の推進 (背景:学際研究連携を推進するため) 医療系学部としての学際研究のあり方について検討する。医療系部局(医学系・薬学系)あるいは医療部局外も含めての研究交流をさらに活発化させ、新たなシーズの発見とその応用に向けた取り組みを検討する。</p> <p>3) 医師主導臨床治験の推進 (背景:臨床研究中核病院事業に参画するため) 医師主導臨床治験や臨床疫学研究を積極的に実施する。</p>	<p>1) 歯学系融合型研究の推進 ●若手PI教育が自主的に研究セミナー「バイオフィォラム」を開催している。歯学部先端領域研究センターが主催するARCOCSセミナーを分野持ち回りで開催し、分野融合型研究を促進している。 ●歯学部先端領域研究センターのセンター長に、特任教授を配置、機能系ならびに形態系共同実験施設の一体的な運用、教育、研究面での機能の向上を図っている。本センターを中心に分野融合型研究に取り組むことを可能としている。</p> <p>2) 新しい学際研究の推進 ●大学院医歯薬学総合研究科研究開発戦略委員会が企画、ブレインストーミング2016 at カリヨンハウス in 瀬戸内市と題して、医学系、歯学系、薬学系だけでなく、瀬戸内市長、NHKエンタープライズ制作本部エグゼクティブプロデューサーなどをお呼びして、医療系学部が地域創成にどのような役割を担うことができるかという点について、文理融合の観点から若手教員の意見交換会を開催した。 ●学際的研究として真菌由来二次代謝産物の有効利用に関する研究を、研究科内歯薬学の3学系および自然科学研究科工学系で行なっている。若手教員が自主的に行なっているものであり、特許申請を検討するに至っている。</p> <p>3) 医師主導臨床治験の推進 ●平成29年度橋渡し研究戦略的推進プログラムの採択を受けて、歯学系も4名の特任助教の人材を派遣している。また、来年度に向けて、歯学系からは、シーズA(8件)、シーズB(3件)、シーズC(1件)の申請を行った。日本歯科医学会連合 大規模研究推進委員会のプラットフォームを利用して、新しいAMEDのアフォーミア発シーズ開発のスキームを歯科領域に広報している。岡山大学病院が医療法制上の臨床研究中核病院事業に採択されたことと関連して、歯学系では、学部レベルでレギュラトリーサイエンス入門を開講、大学院レベルで臨床研究デザインワークショップを拡充している。 ●医師主導第1相臨床試験として「歯科用局所麻酔剤 アーティカイン塩酸塩・アドレナリン酒石酸水素塩注射剤の安全性及び血中薬物動態の検討(第1相・単施設、非盲検試験)」を実施した。本治験は、岡山大学病院新医療研究開発センターの支援で実施された、岡山大学病院が主導した、初めての健康人を対象とした医師主導第1相臨床試験である。</p>
<b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>②-2 大学全体への貢献</b>
<p>1) 欧文ISI掲載論文数 2) 総被引用度数 3) 1論文当たり相対被引用度数 4) 科学研究費採択率</p>	<p>●大学が推進する文理融合の研究体制を積極的に進めた。 ●大型プロジェクトである臨床研究中核病院および橋渡し研究戦略的推進プログラム応募に協力し、その採択に貢献した。 ●岡山大学病院が主導した初めての健康人を対象とした医師主導第1相臨床試験を推進した。 ●歯学系教員による文部科学省科学研究費の申請数、新規採択率、教員取得者率で高い水準を維持した。 ●欧文ISI掲載論文数(歯学関係)、総被引用度数(歯学関係)、Top1%論文の相対値、Top10%論文の相対値、国際共著率において全国でトップクラスを維持した。特に、top1%、top10%の割合が上がり、岡山大学からDentistry, Oral Surgery &amp; Medicine分野に発表している論文のうち、引用数が高い論文の割合が増えていることを示している。</p>
<b>②-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>②-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
<p>1) 欧文ISI掲載論文数 2) 総被引用度数 3) 1論文当たり相対被引用度数 4) 科学研究費採択率</p>	<p>●欧文ISI掲載論文数(歯学関係) 全国国立大学歯学部3位(11校中) ●総被引用度数(歯学関係) 全国国立大学歯学部2位 ●Top1%論文の相対値 全国国立大学歯学部1位 ●Top10%論文の相対値 全国国立大学歯学部1位 ●国際共著率 全国国立大学歯学部2位 ●文部科学省科学研究費の申請および採択率 歯学系教員による文部科学省科学研究費の申請数112件(10%増)、新規採択率40.4%、教員取得者率75.2%。</p>

<b>③社会貢献(診療を含む)領域</b>	<b>自己評価</b>
<b>③-1 目標</b>	<b>③-1 目標の達成状況及び新たに生じた課題への取組</b>
<p>1) 医科との診療連携を推進する (背景:多職種連携の医療連携を促進するため) 医科との医療連携の推進のため、医療支援歯科治療部やスペシャルニーズ歯科センターの活動を推進し、新たな人材の育成、教育、研究の充実を進める。</p> <p>2) 地域の医療機関との連携を促進し、中核病院としての機能の充実を図る。 (背景:大学病院を中心とした地域連携を促進するため) 地域の病院歯科等と大学病院のネットワーク化を進めるためのシステムの構築を図る。</p> <p>3) 各専門診療科は増収に努めるとともに、患者サービスの向上により利用される病院を目指す。</p> <p>4) デジタル化に対応した医療情報システムならびに診療体制の充実を図る。</p> <p>5) 臨産学官の連携によって、研究成果を医療や産業へ展開する。</p>	<p>1) 社会貢献の体制を確立する ●高度医療支援・周術期口腔機能管理実習を必修科目として開設し、新たな人材の育成を進めた。 ●厚生労働省造血幹細胞移植医療体制整備事業の造血幹細胞移植推進拠点病院事業の一環として、造血細胞移植における口腔内管理の人材育成、教育、研究の充実を行った。 ●口唇裂口蓋裂総合治療センターを開設し、チーム医療体制を構築した。 ●医療支援歯科治療部、スペシャルニーズ歯科の充実化を図り、対外的な並びに院内に向けての多職種連携の講演会を開催した。 ●病院感染制御部で感染担当の歯科の代表者を設けた。</p> <p>2) 地域保健活動の推進 ●岡山市多職種連携等調査研究事業の委託を受け、がん患者等への支持的な歯科医療連携を促進する連絡会議を設置、地域連携事例集を市内歯科医療機関に配布した。 ●岡山病院歯科研究会主催の勉強会に参画、各地域拠点病院との連携を開始、陽子線治療に関する講演会を共催した。</p> <p>3) 各専門診療科は増収に努めるとともに、患者サービスの向上により利用される病院を目指す。 ●教育カリキュラムの大幅な変更により、臨床に参加する人数の減少を招いたこと、特定共同指導の実施に伴う診療内容の見直し等が、収益に影響をおよぼした。昨年度末から特定共同指導WGによる保険診療の改善が図られ、指導において、大きな問題は指摘されず、経過観察という良好な結果を得た。これら上半期に生じた収益改善に向けて、病院の経営戦略室へ歯科系より室員を配置し、病院全体の経営戦略への参画、改善を図り、後半に患者数を持ち直した。 ●病院HPIに患者自身で病名や病状を検索できる「歯と口のトラブルナビ」を開設、患者サービスの改善を行った。 ●インプラント治療、高齢者対応診療環境、母子ともに診療が可能となる診療環境の改善が図られた。</p> <p>4) デジタル化に対応した医療情報システムならびに診療体制の充実を図る ●大学病院の電子カルテが外部の医療機関から閲覧できる晴れやかネットに参画し、地域包括ケアの基盤システムとして検討している。</p> <p>5) 臨産学官の連携によって、研究成果を医療や産業へ展開する 上記の医師主導臨床試験の推進を参照のこと。</p>
<b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>③-2 大学全体への貢献</b>
<p>1) 歯科系外来患者数 2) 歯科系診療報酬請求額総額</p>	<p>●文部科学省課題解決型高度医療人材養成プログラム選定事業「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」を全国展開した。 ●岡山市多職種連携等調査研究事業の委託を受け、がん患者等への支持的な歯科医療連携を促進するために連絡会議を設置し、地域連携を図った。 ●4学期制を利用した研究室配属と短期留学制度を推進し、海外派遣と受入に貢献した。 ●口唇裂口蓋裂総合治療センターを開設、各地域拠点病院との連携、陽子線治療に参画など岡山の中核病院としての地域貢献に努めた。 ●診療総報酬請求額において、全国国立大学歯科系附属病院3位(11校中)を維持した。</p>
<b>③-2 目標とする(重要視する)客観的指標</b>	<b>③-3 目標とする(重要視する)客観的指標を達成するための取組・達成状況</b>
<p>1) 歯科系外来患者数 2) 歯科系診療報酬請求額総額</p>	<p>●外来総患者数 全国国立大学歯科系附属病院6位(11校中) ●診療総報酬請求額 全国国立大学歯科系附属病院3位(11校中)</p>
<b>【総括記述欄】</b>	
<p>教育、研究、社会貢献すべてにおいてよい状況を保っている。大学院履修コースにおいて、「ODAPUS for Foreign Students 英語授業シリーズ」を、大学院の「みなし講義」としても開講する等、英語化を徐々に進めている。歯学系の責任枠(32名)を超える大学院生を確保し、外国人も13名含んでいる。大学院電子学務システムPOSGRAの英語化と大幅な改修により電子化も進めている。歯学系融合型研究を進め、大学が推進する文理融合の研究体制整備を積極的に進めた。大型プロジェクトである臨床研究中核病院および橋渡し研究戦略的推進プログラム公募にあたって、協力し、その採択に貢献した。文部科学省科学研究費の申請および採択率において、高い水準を維持した。欧文ISI掲載論文数(歯学関係)、総被引用度数(歯学関連)、Top1%論文の相対値、Top10%論文の相対値、国際共著率において全国でトップクラスを維持した。社会貢献でも、「健康長寿社会を担う歯科医学教育改革—死生学や地域包括ケアモデルを導入した医科歯科連携教育体制の構築—」、多職種連携等調査研究事業、口唇裂口蓋裂総合治療センターを開設各地域拠点病院との連携、陽子線治療に参画等岡山の中核病院としての地域貢献に努めた。</p>	